

埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

私が考えた税金について

熊谷市立大原中学校 三年 田村 美咲

国は国民によって構成されていて、国の経費は国民の義務として税金で負担しなければならない。この義務を負うことで、国民は国の運営に関わりを持つ権利がある。私は今まで税金と言われてもあまり関係を持っていないように思っていた。しかしサラリーマンは毎月の給料から税金が天引きされていたり、私たちの買い物で消費税を払ったりしていて私の家族の中だけでも、税金と言うものを身近に感じた。そして、国民である私たちは国の運営に関わりを持つ権利があるのに、何も知らなかった。私を含める国民が暮らしやすい世の中にするスタート地点として、勉強しようと思った。

私が勉強を始める前として税金を納めなければならない理由を調べてみた。日本国憲法では、「国民には、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ」とされ、国民の三大義務と呼ばれているが、それだけが納税の理由なのだろうか。多くの国民は普段生活をしている時には、あまり国と言う存在を意識することなく、税金を払わずに済ませたいと思うだろう。しかし、国という後ろ楯がなければ、無法状態での生活になり国際的に何の価値もない貨幣経済での暮らしになる事が分かった。税金とは、私たちの生活の基盤である国を維持するためにあると私は思う。そして、私たちが税金を納めなければならない本当の理由は、国民は国から、様々な恩恵を受けて生活しているので、受けた利益の見返りとして納めるのだと思う。

調べている中で、国税と地方税の制度が身近だと実感した。私は税金には納める先によって、国税と地方税があると分かると、手間がかかり、納める税金の違った計算をするのが面倒で、一ヶ所で納める方が良いと思っていた。しかし、自分たちが納めた税金は自分たちの身近な所で使われる制度にするべきだ、という意見の基で地域に密着した仕事の費用は地方税として納める制度になった事に、私たちの生活と税は切れてはいけない糸で結ばれている深い関わりを持っていると感じた。国民が幸せで豊かな成果いつを送るためには、協力し合い、協力を分担することが必要だ。そのため、国家や地方公共団体は私たちの生活に必要な働きをし、その費用を私たちは税金で負担している。

人が一生を生きていくことを人生。一生を「人生の会」と名付けたら、税金とはこの会の会費であると思う。私は積極的に納税をし、呼びかけていきたい。より良い環境で過ごせる日々を目指して。